

Title	吐魯番出土文物研究会会報 第53号 : 墳墓整理号
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 53 p.1-p.4
Issue Date	1991-01-15
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78864
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

阿斯塔那・哈拉和卓古墳群墳墓一覽補訂

荒川正晴 編

【はじめに】

先に編者は、本会報（第8～11号）において、中国が1959年以来発掘を進めてきた阿斯塔那・哈拉和卓両古墳群を対象にして、古墳群を構成する個々の墳墓情報に関する一覧表を作成した。第8号の冒頭にも述べたように、現在両古墳群については正式な発掘報告が発表されていないため、一覧表には墓主名・没年などの基本的な事項を不明とせざるを得ない個所が多く残されてしまった。ところが、その後幸いなことに、『吐魯番出土文書』第9冊（文物出版社、1990年）が刊行され、またさらに新疆師範大学歴史系の侯燦氏によって、これまで未紹介であった墓塚が多く公表されるにいたった¹⁾。こうした資料の追加により、早くも先に作成した墳墓一覧表も訂補を余儀なくされている²⁾。

そこで、本号で主として新たに公表された情報により、先の一覧表を補訂することとした。補訂にあたっては、全墳墓を対象とした一覧表を改めて作成せず、掲載は訂正を加えた墳墓にとどめる。なお、凡例および注の略語は、第8号（1頁）に準じているので、そちらを参照していただきたい。ただし、表中の「②年」（発掘年次）のうち、前掲時に付した（）は削除し、「④没年」の〔 〕は、「墓誌録」による推定年代（ただし149号墓は除外）を示す。

【注】

- 1) 侯燦「解放後新出吐魯番墓誌録<以下「墓誌録」と略称>」（『敦煌吐魯番文献研究論集』第5輯、1990年）563～617頁。氏によれば、1959～1975年の13回にわたる発掘作業で、両古墳群で456基の墳墓を発掘し、そこから墓塚136方を獲得したと指摘される。このほか、1956年には交河故城雅爾湖古墓群から墓塚8方、1976年と1979年には吐魯番県五星公社より2方、また1978年には鄯善県魯克沁公社より1方を獲得している。さらに、1950～1959年にかけて新疆博物館が収集した墓塚が10方（このうち1方は、李帆群氏が掘りだしたもの）あるという。なお、これらの墓塚の多くは、新疆博物館と新疆考古研究所に分蔵されており、そのほか吐魯番地区文管所にも少量が保管されているとのことである（「墓誌録」563～564頁）。
- 2) 会報に分載した一覧表は、掲載後に見落としていた情報や誤植を訂正して、一括して「阿斯塔那・哈拉和卓古墳群墳墓一覧表」（『中央アジア史の再検討—新出史料の基礎的研究—』昭和63年度科研費研究成果報告書、1990年3月、59～87頁）と題して再録した。なお会報は、吐魯番出土文物研究会編『吐魯番出土文物研究情報集録—吐魯番出土文物研究会会報1-50号—』（平成2年度科学研究費補助金・〔中央ユーラシア諸民族の歴史・文化に関する国際共同研究の企画・立案〕成果報告書 No.2、1991年）として合冊されている。

<阿斯塔那古墳群墳墓一覽補訂表>

①番号	②年	③埋葬者	④没年<伴出紀年文書>	⑤墓	⑥隨	⑦文	⑧頁数
TAM 9	64					9	209-212
TAM 15	64	唐幢海／妻・王氏(墓)	【夫・貞觀15年(641)以降】， 妻・延壽14年(637)(墓)<延壽 13年-貞觀15年(636-641)>	1方	1件	4	31-61
TAM 30	64			無	無	9	187-188
TAM 36	64	成達(墓)※1	開元2年(714)(墓)<神龍元年 (705)>	1方	無	8	31-5
TAM 37	64		<大歷3年(768)>	無	無	9	153-161
TAM 43	66			無	無	9	183-186
TAM 49	66			無	無	9	223-224
TAM 50	66	宋慎光	<重光3年(622)>	無	無	3	166-84
TAM 61	66	哇海生(墓)※2	咸亨4年(673)(墓)<麟德2年 (665)>	1方	無	6	458-97
TAM 63	66	史柱者(墓)	咸亨4年(673)(墓)	1方			
TAM 73	66			無	無	9	178-182
TAM 75	67	王保謙(墓)	延壽5年(628)(墓)	1方			
TAM 77	67	<女屍1>		無	無	9	243-245
TAM 79	67	賈謙恕(墓)	延昌36年(596)(墓)	1方			
TAM 84	67	□□相(墓)※3	唐□□2年(墓)<延昌14年 (574)>	(1方)	無	2	204-13
TAM 85	67			無	無	9	168-170
TAM 94	67	蘇海隆(墓)	咸亨2年(671)(墓)	1方			
TAM 99	68	□追	麟德元年(664)(墓)<延壽8年 (631)>	1方	無	4	補49-65
TAM101	68			無	無	9	162-165
TAM104	68		【唐西州時代】	1方			
TAM105	68			無	無	9	171-174
TAM110	69	張沂子妻・高臺柔(墓)，張銀子 妻・高臺量(墓)	高臺柔・延和6年(607)(墓)， 高臺量・延壽15年(638)(墓)	2方			
TAM111	69	張子慶(墓)／妻(墓)	夫・貞觀14年(640)(墓)，妻・ 貞觀22年(648)(墓)	2方			
TAM115	73	張曜子(墓)		1方			
TAM132	69	趙慶富(墓)※4	【唐西州時代】	1方			
TAM139	69			無	無	9	225-229
TAM149	72		【麹氏高昌時期】※9				
TAM153	72	張教子(墓)，合葬・A※5	<延昌36-7年(596-7)>(女先)	1方	無	2	325-45
TAM161	72			無	無	9	219-222
TAM167	72			無	無	9	230-231
TAM190	72	張大炭妻・焦氏(墓)	開元3年(715)(墓)	1方			
TAM199	72	張阿質(墓)／妻・麹氏(墓)	夫・重光元年(620)(墓)，妻・ 延昌41年(601)(墓)	2方			
TAM203	73	張安吉(墓)	總章2年(669)(墓)	1方			
TAM213	72		【唐西州時代】	1方			
TAM214	73	張氏／妻・麹勝(墓)，合葬・D	妻・麟德2年(665)(墓)(女先)	1方	無	6	302-23
TAM218	73	張彦(墓)	【唐西州時代】	1方			

①番号	②年	③埋葬者	④没年<伴出紀年文書>	⑤墓	⑥隨	⑦文	⑧頁数
TAM224	73			無	無	9	235-242
TAM227	72			無	無	9	232-234
TAM234	73	刀柱柱(墓)	[唐西州時代]	1方			
TAM326	60	孟雍／妻・趙氏(墓)※6	襄・延昌26年(586)(墓)(女先)<和平元年-綽章元年(551-668)>	1方	無	5	150-65
TAM370	67	解顯武(墓)※7	延和12年(613)(墓, 隨)	1方	1件	3	58-9
TAM380	67			無	無	9	189-197
TAM381	68		<大歷年間>	無	無	9	166-167
TAM504	73	張善哲(墓)／妻・劉法台(墓)	夫・延壽12年(635)(墓), 妻・貞觀16年(642)(墓)	2方			
TAM508	73	張詮(墓), 合葬墓※8	張詮・長安3年(703)(墓)<天冊萬歲2年-萬歲通天2年(696-697)>	1方	無	7	215-19
TAM509	73	張運感／妻(墓)(3屍)	張運感・開元25年(737)／妻・久視元年(700)(墓)<長壽2年-寶應元年(693-762)>	2方	無	9	1-150
TAM510	73		<寶應元年(762)>	無	無	9	151-152
TAM511	73	張智積妻・魏慈音(墓)	聖曆3年(700)(墓)	1方			
TAM519	73	張隆悅妻・魏文姿(墓)	貞觀16年(642)(墓)<延壽17年(640)>	1方	無	4	123-26
TAM520	73		延和6年(607)(墓)	1方			
TAM525	73	令狐法奴妻・趙氏(墓)	[魏氏高昌國時代]	1方			
TAM526	73	令狐氏(墓)		1方			
TAM531	73			無	無	9	205-208
TAM532	73			無	無	9	198-204

<哈拉和卓古墳群墳墓一覽補訂表>

①番号	②年	③埋葬者	④没年	⑤墓	⑥隨	⑦文	⑧頁数
TKM 30	(69)	張賢壽(墓)※1					
TKM 76	75	賈口行祖母・翟氏(墓)	上元2年(675)(墓)	1方			
TKM 86	75	田府君夫人・衛氏(墓)	證聖元年(695)(墓)	1方			
TKM 82	75	賈氏(墓), 賈容兒(墓)	賈氏・延昌41年(601)(墓), 賈容兒・延壽10年(633)(墓)	2方			
TKM 32	69	貝顯慎(墓)	延和3年(604)(墓)	1方			

<阿斯塔那古墳群墳墓一覧補訂表>

【注】

- (1) 『文物』1973年第10期(14頁)によって、本墓の墓主を「張師成」としたが、『文書』Ⅷ(31頁)と同様、「墓誌録」(録注141, 611頁)も「成達」の墓誌(64TAM36:12)を掲げる。
- (2) 第8号の一覧表では、墓主を「哇海生」としたが、「墓誌録」(録注121, 602頁)には、墓主を「海生」とする。
- (3) 『文書』Ⅱ(204頁)の阿斯塔那84号墓の解説では、伴出した墓埴はないとするが、「墓誌録」(録注150, 615頁)には「唐□□二年□□相墓誌」(67TAM84:1)を紹介する。
- (4) 「趙慶富」(69TAM132:1)の名は、阿斯塔那140号墓より出土した「張元相買葡萄園券」(69TAM140:18/4)の「倩書」として見えている(『文書』Ⅴ、54頁)。
- (5) 『文書』Ⅱ(325頁)の阿斯塔那153号墓の解説では、伴出した墓埴はないとするが、「墓誌録」(録注72, 586-587頁)には「高昌年間張救子墓記」(72TAM153:1)を掲載する。
- (6) 本墓主名を「墓誌録」(録注22, 572頁)では、「将孟雍」として掲載する。ただし、冒頭の「将」をいかに解釈するかについては明記していない。
- (7) 本墓については、第10号の一覧表において、同号の4頁に載せた【付表】(新疆吐魯番地区文管所「高昌墓磚拾遺」<『敦煌吐魯番文献研究論集』第3輯、1986年>585~602頁に基づいて作成)によって、墓主を延和12年(613)に没した「解頤武」としたが、「墓誌録」ではこれを掲げていない。
- (8) 侯燦「麴氏高昌国官制研究」(『文史』第22輯、1984年)には、「張銓」(阿斯塔那201号墓の墓主の子)とするが、「墓誌録」(録注140, 610-611頁)には「張詮」とする。
- (9) 夏鼐「綜述中国出土的波斯薩珊朝銀幣」(『考古学報』1974年第1期<同・樋口隆康他訳『中国考古学研究』学生社、1981年>)の付表5(№.26、『考古学報』110頁・『中国考古学研究』321頁)には唐墓とするが、伴出資料から侯燦氏は麴氏高昌国時代と推定する(1989.7.17付けの編者への私信)。

<哈拉和卓古墳群墳墓一覧補訂表>

【注】

- (1) 第8号の6頁の注(5)において、「張賢壽」の墓埴(土塊)が、阿斯塔那30号墓出土として紹介されている(『文物』1972年第1期<14頁, 図16>)ことに対して、編者はこれがあるいは阿斯塔那130号墓の誤りではないかと推測しておいたが、「墓誌録」(録注76, 588頁)には、哈拉和卓30号墓より出土したことになっており、69TKM30:1の資料整理番号が付されている。

事務局(連絡先) 〒182 東京都調布市国領町5-19-14

荒川 正晴 方 TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会(The Research Society for Turfan Relics)